

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
公演団体名	神奈川フィルハーモニー管弦楽団

<p>内容①</p> <p>＜演奏指導：一緒に演奏しよう＞</p> <p>① L. モーツァルト／おもちゃの交響曲から第2楽章 [小学校低学年] 「かっこうパート」と「打楽器パート」に分かれて行います。 「かっこうパート」は、リコーダーやピアノカ等、普段学校や地域の地域活動で児童・生徒が使用している楽器を使います。(ソとミの音が出れば他の楽器でも可能) 「打楽器パート」は、カスタネット、タンブリン等、普段学校や地域の地域活動で児童・生徒が使用している楽器を使います。(ペットボトルや空き缶等でも可能)</p> <p>②-A エルガー／行進曲“威風堂々”第1番 [小学校高学年] ②-B 杉本竜一／ビリーブ [小学校高学年] AまたはBのどちらかを選択。主にリコーダーで行います。</p> <p>③ ロジャース／サウンド・オブ・ミュージック [中学校吹奏楽] 木管楽器、金管楽器、打楽器の各パートに分かれて分奏を行います。</p> <p>＜合唱指導：私たちだけの合唱曲＞</p> <p>④ 私たちだけの合唱曲 [小中学校共通] 事前に児童生徒が作詞・作曲した合唱曲を可能な範囲で練習して頂き、当日は指揮者の指導の下、全体の合唱指導を行います。</p>
--

<p>タイムスケジュール（標準）</p> <p>■午後に行う場合</p> <p>13:00－13:30 打合せ</p> <p>13:30－13:50 演奏指導①：「おもちゃの交響曲」（低学年）</p> <p>13:50－14:00 休憩・児童移動</p> <p>14:00－14:20 合唱指導：「私たちだけの合唱曲」（全校児童）</p> <p>14:20－14:30 休憩・児童移動</p> <p>14:30－15:00 演奏指導②：「威風堂々第1番」もしくは「ビリーブ」（高学年）</p> <p>⇒ワークショップ終了後：本公演の打ち合わせ</p>
--

<p>派遣者数</p> <p>指導者4名、スタッフ1名、合計5名</p>

学校における事前指導

①レオポルド・モーツァルト／「おもちゃの交響曲」から第2楽章（小学校低学年）

②-A エルガー／行進曲“威風堂々”第1番（小学校高学年）

②-B 杉本竜一／ビリーブ（小学校高学年）

神奈川県から事前に送らせて頂きました楽譜及び練習用ピアノ伴奏CD、映像資料を利用し、ワークショップまでに無理のない範囲で練習をお願いします。

③ロジャース／サウンド・オブ・ミュージック・メドレー（中学校吹奏楽部）

神奈川県から事前に送らせて頂きましたオーケストラ・スコアと吹奏楽用パート譜を使用し、ワークショップまでに無理のない範囲で練習をお願いします。

④私たちだけの合唱曲

事前に児童生徒に作詞・作曲（簡単な旋律）を募集して頂きます、それを神奈川県が2部合唱用（中学校は3部合唱用）にアレンジします。アレンジ後、神奈川県から送らせて頂きます楽譜及び練習用ピアノ伴奏CDを使用し、ワークショップまでに無理のない範囲で練習をお願いします。

作詞・作曲と聞くと大変な作業と感ずるかもしれませんが、簡単なメロディー、短い歌詞を組み合わせても素敵な曲が出来上がります。児童生徒のみではなく、音楽が好きな先生や知識をお持ちの先生がいらっしゃいましたら、ぜひ一緒に参加して作詞・作曲してください。

“第2の校歌”や“行事の歌”を作るつもりで楽しんで下さい！

■ 作詞作曲の進め方の例 ■

- ・全校で歌に入れたい言葉を集めて、高学年で編成した作詞委員会がつなぎ合わせました。 (和歌山県の小学校)
- ・曲はグループで2小節ずつ作って担任がつなぎ合せました。意外といい曲になりました！ (三重県の小学校)
- ・簡単なメロディーを作って1番は1、2年／2番は3、4年／3番は5、6年で作詞しました。 (大阪の小学校)

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
公演団体名	神奈川フィルハーモニー管弦楽団

演目	
1.	ビゼー作曲：歌劇「カルメン」より“前奏曲”
2.	ビゼー作曲：歌劇「カルメン」より“ジプシーの踊り”
3.	オーケストラの楽器の紹介（1種類ごと）
4.	一緒に演奏しよう！（共演）
①L.	モーツァルト作曲：おもちゃの交響曲から第2楽章 [小学校低学年]
②-A)	エルガー作曲：行進曲“威風堂々”第一番 [小学校高学年]
②-B)	杉本竜一作曲：ビリーブ [小学校高学年]
	※AまたはBのどちらかを選択
③	ロジャース作曲：サウンド・オブ・ミュージック [中学校吹奏楽]
5.	児童生徒作詞作曲：私たちだけの合唱曲 [全学校共通]
6.	A) ヴェルディ作曲：オペラ「アイダ」より“凱進行進曲”
	B) チャイコフスキー作曲：バレエ「くるみ割り人形」より「花のワルツ」
	※AまたはBのどちらかを選択
7.	(アンコール) 校歌（オーケストラによる特別編曲の演奏と斉唱）

派遣者数
出演者59名、スタッフ5名、合計64名

タイムスケジュール（標準）
9:00－11:00 到着および設営準備
11:00－12:00 演奏者到着
12:00－13:00 リハーサル
13:00－ オーケストラ昼食
13:30－ 開場（児童生徒体育館へ移動）
14:00－15:15 コンサート
15:15－17:00 撤去、搬出

実施校への協力依頼人員
<ul style="list-style-type: none"> ・体育館にある備品の片づけ、指揮者、楽団員の控室の準備は開催校のみなさまでお願いいたします。 ・会場の都合により楽器搬入・搬出のお手伝いをお願いする場合がございます。 ・楽団員が大型バスで来校する場合、バス駐車場から会場までの誘導をお願いする場合がございます。 ※事前の打ち合わせ時にご説明いたします。

演目解説

1. ビゼー／歌劇「カルメン」より「前奏曲」

フランスが生んだ薄命の天才作曲家ビゼーの傑作「カルメン」は、おそらく古今のあらゆる歌劇中で、随一の人気を誇る作品と言って過言ではないでしょう。この「前奏曲」は、中間部で有名な「闘牛士の歌（トレアドール）」の旋律が力強く奏でられるエネルギッシュな曲で、演奏会のアンコールなどでもよく演奏されます。この誰もが耳にした事のある名曲をオープニングに演奏し、子ども達の興味をステージへと引きつけます。

2. 歌劇「カルメン」より“ジプシーの踊り”

1曲目と同じオペラの劇中で、フルートとハーブの伴奏で始まる異国情緒豊かな踊りの音楽です。曲の最後ではテンポがだんだんと速くなり、迫力満点のクライマックスを迎えます。

3. 楽器紹介

オーケストラには様々な楽器が使われています。ふだん写真やビデオなどでしか見ることのできないこれらの楽器を指揮者によるわかりやすい解説とともに、実際に演奏しながら説明していきます。2020年度よりハーブも加わり、各楽器の特徴を理解した上であらためてオーケストラを聴くことで、鑑賞への興味がより一層増すでしょう。

4. <一緒に演奏しよう>

①レオポルド・モーツァルト／「おもちゃの交響曲」より第2楽章（小学校公演）

モーツァルトの父親として知られるレオポルド・モーツァルトによって作曲されたユニークな作品です。弦楽だけのオーケストラに巧みにおもちゃの音を組み合わせ、子ども達が喜ぶ楽しい作品に仕上がっています。今回の公演ではテンポがゆっくりで馴染みやすい第2楽章を題材に、主に小学校低学年の児童の皆さんにカスタネットや鍵盤ハーモニカ、リコーダーなどの楽器を使用しオーケストラとの共演に参加していただきます。

②-A エルガー／行進曲“威風堂々”第一番（小学校公演）

イギリスの作曲家、エルガーの作曲した曲の中で最も有名な作品で、イギリスの第2の国家として親しまれています。教科書の教材として取り上げられるなど、テレビでもよく流れている親しみやすい曲です。堂々と、がっちりとした感じの行進曲で始まった後、中間部の雄大なメロディを児童の皆さんにリコーダーなどによる演奏でオーケストラに参加していただきます。

②-B 杉本竜一／「ビリーブ」(小学校公演)

音楽の教科書にも載っており普段は合唱曲として取り上げているこの曲を、今回はリコーダーの演奏でオーケストラと共演します。歌詞を思い浮かべながら、壮大なオーケストラの演奏と一緒に楽しみましょう。

③ロジャース／サウンド・オブ・ミュージック・メドレー（中学校公演）

中学校の吹奏楽部とプロのオーケストラの合同演奏です。

5. <私たちだけの合唱曲>

本公演のいちばんのクライマックスとなるこの曲は、児童生徒が主役です。事前に募集した作詞・作曲をプロの作曲家がオーケストラ伴奏付きの合唱曲に編曲し、世界に一つしかない自分たちだけのオリジナル作品としてオーケストラとの共演を体験していただきます。

6. -A ヴェルディ／オペラ「アイダ」より“凱旋行進曲”

ヴェルディ作曲の歌劇「アイダ」の劇中歌。第2幕でエチオピア軍に勝利したエジプト軍が凱旋するシーンで登場する曲です。冒頭部分は映画やCMによく使用され、また曲中トランペットによるメロディはサッカー日本代表の応援テーマとして取り入れられるなど、日本でも広く親しまれています。

6. -B チャイコフスキー／バレエ「くるみ割り人形」より“花のワルツ”

チャイコフスキーの三大バレエの一つから、クラシック音楽の中で最もポピュラーな曲です。冒頭では美しいハーブの音色も楽しむことができ、木管の響きやヴァイオリンソロを楽しんだ後、クライマックスではオーケストラ全体で盛り上がり集結します。

7. アンコール：校歌斉唱

コンサートの最後の「アンコール」として用意していますので、児童生徒には内緒にしておいて下さい。校歌をオーケストラ伴奏用に編曲し、オーケストラからささやかな音のプレゼントとさせていただきます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

1. 小学校公演

小学校公演では器楽を使用し低学年と高学年に分かれて2回、全体合唱で2回の計4回、オーケストラと共演できます。器楽は、基本的に低学年と高学年に分けますが、各学校の状況に合わせて変更することもできます。

- 低学年の場合、カスタネット等の各種打楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダー等でオーケストラの演奏に参加します。上記以外の楽器でも状況に合わせて対応します。
- 高学年の場合、リコーダーや、鍵盤ハーモニカ等で、オーケストラと合同演奏をします。上記以外の楽器でも状況に合わせて対応します。

2. 中学校公演

各学校の吹奏楽部と神奈川フィルが合同で演奏します。

3. 小中学校共通

全体合唱「私たちだけの合唱曲」では、事前に児童生徒に、作詞・作曲（簡単な旋律）を募集し、それを楽団が2部合唱（中学校は3部合唱）用に編曲し、その作品をワークショップで指導いたします。

当日は、全員でオーケストラとの作品完成に挑みます。

児童生徒とのふれあい

ワークショップではプロの演奏家から直接指導を受けることができ、またプロの演奏を間近に見聞きすることで本物にふれる事ができます。

本公演ではフルオーケストラの演奏を間近で見聞きするほか、楽器解説やクイズなど指揮者と“キャッチボール”を楽しむ事で、自然と音楽の知識や鑑賞への集中力を養う事ができます。

また、ステージの設営においてもオーケストラ難壇を持参して設営することにより、本物のホールのように後方席からもオーケストラを見る事ができ、ステージと客席にさらに一体感が生まれるような工夫を凝らしています。